

平成29年度 さんぼく南小学校校内研修計画

1 学力向上推進プラン

(1) 学力向上に向けた基本方針

本校の最重要課題は学力向上である。教育目標を基に、「かしこく」「つよく」「ともにのびる」の3つの視点から目指す子ども像を「問いをもって追究し、自分の言葉で表現する子／めあてをもち、本気で取り組む子／自他の違いを認め、互いを尊重する子」と設定し、その具現を目指している。

(2) 昨年度の成果と課題

昨年度は、家庭学習等の学力の基盤づくり、Web 配信問題への取組体制整備等による基礎学力の定着、主体的な学びを促す授業改善の取組等、幅広く取り組んだ。その結果、次のような成果が得られた。

- Web 配信問題への取組体制、取組内容の共有化を図った結果、各学年の取組が計画的に進められた。事前に解説資料を教材研究しつまずきやすいポイントの重点化を図ったり、分析から習熟が必要なポイントを明確にしたりすることができた。年間を通じて全県平均を上回ることができた。
- 「自主学習ノートコンクール」を年間3回実施した。文化祭や個別懇談の時期に行ったため、児童や保護者への意識付けができた。「南青空タイム」での家庭学習の計画等の取組も定着してきており、毎日の家庭学習の目標時間を達成している児童が多くなった。
- 授業改善の取組では、研修テーマの達成を目指し、一人一授業公開で校内研修を進めた。また、授業交流研修として、普段の授業の様子を互いに見合うことを年間2回実施できた。その結果、課題設定の工夫への意識付けが進み、子どもたちが「授業がよく分かる」と答えた児童が多かった。さらに、学んだことの振り返りについて授業の終わりに、どのような力が付いたか、次にどんなことを勉強したいかなど、内容に深まりが見られるようになった。

一方、今年度への課題として、次の点が挙げられる。

- 家庭学習習慣では成果が上がっているが、一層の質の向上が必要である。ドリルでの漢字や計算の練習も大事だが、さらに、授業の予習や復習、身近な生活の中から学んだことを生かした自主的な学習ができるよう、家庭学習の質の向上、さらには自主性の育成に努めたい。
- 課題提示の場面で意欲的に学習している児童の姿は多く見られるようになったが、単元全体を通じて「何ができるようになったか」「次は何をしてみたいか」など、解きたいという意欲を持続させて学習しているかどうかについては、まだ授業の改善の余地がある。また、ペアやグループでの話し合い活動も活発に行われたが、その話し合いによって、児童の考えがどのように変わったか、深まったかを見取ることは難しかった。

(3) 今年度の取組

今年度は、思考力・判断力・表現力の育成、学習意欲の向上につながる授業改善を図ることが課題である。そこで、次のことに取り組む。

- ① どの子ども「問い」をもち、主体的に問題解決に取り組むとともに、考えたことを話し合いの場で表現したり、授業によってより確かになった自分の考えを書いたりすることなどを意識した授業づくり
- ② 自分の考えを安心して表現し、聴き合うことのできる子どもの関係づくり
- ③ Web 配信問題（過去問）の教材研究への事前活用と、指導のポイントを明確にした授業準備
- ④ 全校一斉の南青空タイムの充実と地区小中学校間の連携（学習カード・家庭学習強調週間）、校内漢字検定や Web 個人ファイルの活用、授業と関連付けた宿題等による家庭学習内容の充実

2 研修内容

(1) 研修テーマ

「かしこく」プロジェクトでは、『問いをもって追究し、自分の言葉で表現する子』を育てるため、校内の研究目標として、以下のような研究テーマを設定した。

主体的に学習し、学びを深める授業の工夫

主体的に学習する姿とは・・・

学ぶことに興味・関心をもつ姿
見通しをもって粘り強く取り組む姿
自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる姿

学びを深めるとは・・・

「ああ、そうか！」という新たな気付き → 学びの窓が開く
「わたしはこう思う」という自己の考えの形成、集団としての考えの形成
「ぼくは、こうしたい！」という思いを基に、構想・創造する

具体的には、以下の2点について実践を基に研究することとした。

- ア 子どもが主体となつてつくりあげる授業（単元を通した課題設定の工夫・発問の工夫・）
- イ 話し合いや振り返りの工夫（アクティブワードを使った話し合いや振り返りの工夫）

(2) 具体的な方策

ア 子どもが主体となってつくりあげる授業

- ① 子どもたちが主体的に対象とかかわり、問いをもって追究させるために、課題提示、主発問、児童の思考や表現を深めるための授業構成について工夫していく。

(例)

- ・教材研究（子どもたちが興味・関心をもち、自分事として解決したいと思えるもの）
- ・教具（視聴覚機器・ボード等）
- ・板書（かかわる様子や考えがつながる様子を可視化する。）
- ・ノート（考えの記述）、ワークシートの工夫
- ・話し合いの形態（ペア、グループ、学級全体 等）
- ・話す聞く、書く力の育成
- ・つまづいた際の支援 等

主体的な学習の育成

イ 自ら学んだことを振り返り、自ら課題がもてるようにする手立ての工夫

- ① 単元を通した課題を常に意識したまとめ方を工夫していく。
- ② 子どもたちが自分の言葉で表現する場を多く設定する。話し合いが活発になるように、『アクティブワード』を示し、互いの考えを深める話し合いや振り返りができるようにする。

深い学びの実現

アクティブワード について

「どうして？」
「たとえば？」
「もっとくわしく教えて」
「なぜ？」
「どう思う？」

など、特に聞く側の力を育てることが話し合いの充実につながる。どのような言葉かけ（教師の支援方法、子ども同士の関わり方）で深まりのある話し合いができたり、自分の考えが書けたりしたかを研究していく。

(3) 授業研修の進め方

研究教科は自由とし、1人1公開授業と共に、年間2回の授業交流研修も行う。授業交流研修とは、日頃の授業の様子を半分のグループごとに公開し、自由に参観し合うものである。放課後、互いの授業の良かった点などを話し合い、自身のよりよい授業改善の糧としていく。研究教科は、生活科・総合的な学習の時間とする。（30年度にへき・複研究会あり）また、杉1・2については、教科にこだわらない。

(4) 授業研修計画

月	内 容	授業交流研修と 指導案検討
4	校内研修（全体計画の作成、協議、決定）	
5	授業計画作成（各学年の生活・総合の計画完成）	第1回（3限：1・3・5 年、5限：2・4・6年） ①の指導案検討
6	授業研修 ① ②	②の指導案検討 ③の指導案検討
7	下越教育事務所指導主事訪問 授業研修 ③	
8		④の指導案検討 ⑤の指導案検討
9	授業研修 ④ ⑤	⑥の指導案検討
10	授業研修 ⑥	⑦の指導案検討
11	授業研修 ⑦ ⑧	⑧の指導案検討
12		第2回（3限：下学年、 5限：上学年）
1	成果と課題レポート提出	
2	校内研修（校内研修のまとめ） 研修集録作成	
3	校内研修（次年度の研修の方向について検討）	